

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年9月4日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	7月の価格情報		8月の価格情報			8月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 見通しの価格水準
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格 下旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格 上旬	中旬				
葉菜類	キャベツ	74.19	55 (74%)	74.19	58 (78%)	82 (110%)	・9,833t (89%)	群馬(79)	<p>群馬産は、8月中旬まで曇天、降雨が続いたものの、生育及び品質は概ね良好であることから、現在平年並みの出荷は、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産の出荷は平年並みと見込まれるが、野菜全体としては強持ち合いとなっていることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		88.91	57 (65%)	88.91	60 (67%)	88 (99%)	・3,577t (83%)	群馬(72)、長野(27)	
	たまねぎ	93.34	77 (83%)	93.34	80 (86%)	80 (86%)	・3,549t (83%)	北海道(90)	<p>北海道産は、一部ほ場で湿害の懸念があるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷は、引き続き平年並みと見込まれることから、7月から続く安値基調により、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。</p>
		93.34	72 (77%)	93.34	80 (86%)	80 (86%)	・1,879t (98%)	北海道(79)、兵庫(18)	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	291 (101%)	287.00	289 (101%)	414 (144%)	・875t (64%)	青森(26)、秋田(20)、北海道(17)	<p>青森産は、8月の降雨による収穫作業の遅れ等で出荷ペースが鈍かったものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、低温による生育遅れや降雨による収穫遅れはあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、日照不足により細物がみられるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 青森産、秋田産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。</p>
		487.13	264 (54%)	487.13	317 (65%)	415 (85%)	・137t (85%)	香川(25)、徳島(20)、三重(14)、大阪(10)、奈良(9)	
はくさい	58.82	59 (100%)	58.82 81.96	58 (98%)	76 (93%)	・2,865t (89%)	長野(94)	<p>長野産は、8月中旬までの降雨と気温の低下等で、肥大ペースが緩やかとなり、二期作の出荷もやや遅れているものの、最近の好天により生育も回復していることから、現在やや多めの出荷は、大きな天候のくずれがなければ、引き続きやや多めの出荷の見込み。 長野産の出荷がやや多めと見込まれることから、消費地の低温により一時的に引き合いが強まり、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。</p>	
	62.79	55 (88%)	62.79 88.72	56 (90%)	74 (83%)	・1,725t (80%)	長野(100)		
ほうれんそう	583.95	605 (104%)	583.95	781 (134%)	823 (141%)	・322t (96%)	群馬(32)、栃木(22)、茨城(17)	<p>群馬産及び栃木産は、8月の天候不順による生育不良から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、8月の曇天及び降雨により一部で品質にばらつきが見られるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産の出荷は、平年並みと見込まれるものの、群馬産及び栃木産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>	
	670.86	654 (98%)	670.86	761 (113%)	851 (127%)	・137t (75%)	岐阜(80)、北海道(8)		
レタス (結球)	120.13	90 (75%)	158.27	95 (60%)	105 (67%)	・5,209t (89%)	長野(82)	<p>長野産は、出荷終盤を迎えており、天候の回復に伴い、生育は概ね順調なことから、現在平年並みの出荷は、引き続き平年並みの出荷の見込み。 長野産の出荷は、平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。</p>	
	125.61	98 (78%)	152.57	97 (63%)	106 (69%)	・1,927t (104%)	長野(98)		
果菜類	きゅうり	221.22	224 (101%)	221.22	225 (102%)	283 (128%)	・3,452t (75%)	福島(28)、群馬(12)、岩手(11)、埼玉(11)	<p>福島産は、露地作の天候不順による生育遅れや生育不良等により、現在平年より少なめの出荷は、抑制作の出荷増に伴い、今後はやや少なめに回復する見込み。群馬産は、8月中旬までの低温、曇天による生育遅れにより、現在やや少なめの出荷は、天候次第だが、抑制作の出荷増に伴い、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、8月の曇天、降雨による大きな影響はなく、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 福島産の出荷がやや少なめに回復すると見込まれ、群馬産及び岩手産が平年並みに回復または平年並みと見込まれるものの、東北産及び後継産地である関東産の端境が発生していることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		232.80	202 (87%)	232.80	210 (90%)	287 (123%)	・1,115t (84%)	福島(32)、北海道(24)、群馬(10)、愛媛(9)	
	トマト (大玉)	252.46	226 (89%)	252.46	246 (97%)	259 (102%)	・4,903t (83%)	福島(18)、千葉(17)、青森(14)、北海道(14)、茨城(11)	<p>福島産は、8月の曇天、降雨による生育不良や着色不足により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、8月の曇天により夏秋及び抑制作とも生育遅れがみられ、現在は平年より少なめの出荷となっているものの、抑制作の出荷増の見込みから、今後はやや少なめの出荷に回復する見込み。青森産は、日照不足による小玉傾向のため、箱数が伸びず、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。北海道産は、生育遅れや着色不良により、現在平年よりやや少なめの出荷は、天候次第だが、平年並の出荷に回復する見込み。 北海道産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるものの、福島産、千葉産及び青森産の出荷が平年より少なめまたはやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		298.46	250 (84%)	298.46	258 (86%)	272 (91%)	・2,000t (82%)	北海道(34)、岐阜(31)、群馬(10)、岡山(8)	
	なす	230.51	257 (112%)	230.51	282 (122%)	271 (117%)	・2,283t (80%)	栃木(31)、群馬(29)、茨城(20)	<p>栃木産は、日照不足による生育不良でやや少なめの出荷となっているものの、8月下旬からの天候回復に伴い、今後は平年並みの見込み。群馬産は、8月の曇天による水腐れ等がみられることから、引き続きやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、8月の曇天、降雨の影響は軽微で、生育及び品質は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年並みに回復し、茨城産及び群馬産の出荷も平年並み又はやや少なめと見込まれるものの、秋商材としての需要が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		232.81	260 (112%)	232.81	263 (113%)	258 (111%)	・947t (82%)	山梨(31)、徳島(17)、大阪(8)、奈良(8)	
ピーマン	276.65	361 (130%)	263.58	320 (121%)	362 (137%)	・690t (65%)	茨城(43)、岩手(38)	<p>茨城産は、一部で樹勢が弱い場があるものの、天候の回復により、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。岩手産は、秋作(抑制作)の出荷も順調なことから、現在平年並みの出荷は、今後は天候次第ではあるものの、やや多めの出荷の見込み。 茨城産の出荷は、平年並みに回復し、岩手産の出荷は、平年をやや上回ると見込まれるものの、市場における品薄感から、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>	
	293.32	286 (97%)	296.27	279 (94%)	325 (110%)	・298t (70%)	青森(26)、茨城(13)、兵庫(13)、大分(9)		
根菜類	だいこん	94.60	72 (76%)	94.60	79 (83%)	85 (90%)	・3,143t (102%)	北海道(59)、青森(36)	<p>北海道産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、生育の遅れから、現在出荷は少なめとなっているものの、肥大が概ね順調であることから、今後はやや少なめの出荷に回復する見込み。 北海道産の出荷が引き続き平年並みと見込まれ、青森産の出荷がやや少なめの出荷に回復すると見込まれるが、今後は需要期に入り引き合いが強まることから、現在平均を下回っている価格は、今後は、平均並みで推移する見込み。</p>
		95.37	65 (68%)	95.37	76 (80%)	82 (86%)	・1,411t (104%)	北海道(64)、岐阜(11)、青森(11)、岩手(9)	
	にんじん	133.01	85 (64%)	123.08	60 (49%)	62 (50%)	・2,542t (80%)	北海道(90)	<p>北海道産は、天候に恵まれ、道内主産地の生育は概ね順調であることから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷が多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。</p>
132.62		80 (61%)	123.11	54 (44%)	61 (50%)	・1,030t (82%)	北海道(97)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
6 はくさいの平均価格は、上段が7月1～8月10日まで、下段は8月11日～10月15日までの価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	7月の価格情報		8月の価格情報		8月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格					
いも類	さといも	361.20	334 (92%)	254.79	476 (187%)	515 (202%)	・56t (64%)	千葉(71)	 千葉産の出荷が平年並みに回復すると見込まれるものの、秋商材としての需要が見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、今後は平均並みに近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		347.90	318 (92%)	220.11	367 (167%)	480 (218%)	・8t (56%)		
	ばれいしょ	111.77	115 (103%)	111.77	111 (99%)	114 (102%)	・2,034t (77%)	北海道(96)	 北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、販促による需要や学校給食需要が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	111.77	111 (99%)	111.77	100 (90%)	107 (95%)	・1,160t (98%)	北海道(95)		

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	7月の価格情報		8月の価格情報		8月中旬の東京都及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し	
	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格				
洋菜類	ブロッコリー	371.41	371 (100%)	386.86	436 (113%)	400 (103%)	・324t (101%)	 北海道産及び長野産の出荷が平年並みと見込まれるものの、需要は堅調なことから、8月下旬以降に価格上昇を予想している価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		390.83	407 (104%)	404.47	440 (109%)	466 (115%)	・125t (121%)	
根菜類	ごぼう	325.94	416 (128%)	295.61	365 (123%)	427 (144%)	・113t (98%)	 青森産、茨城産及び群馬産の出荷は、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		214.56	227 (106%)	173.09	213 (123%)	318 (184%)	・34t (50%)	
果菜類	かぼちゃ	212.02	230 (108%)	175.73	255 (145%)	250 (142%)	・733t (84%)	 北海道産の出荷は、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		152.57	172 (113%)	157.90	198 (125%)	216 (137%)	・212t (78%)	

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 野菜の輸入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

〇輸入について
 貿易統計によると、平成29年7月の生鮮野菜の輸入量は、この時期に輸入が増えるたまたねぎ、にんじん等の国産の作況が良かったこともあり、6万トン(前年同月比85%)にとどまった。また、輸入量の多い加工野菜は、16万8千トン(同108%)と前年をかなりの程度上回り、野菜全体では、22万8千トン(同101%)とわずかに増加した。
 このうち、中国産の輸入数量は合計で、11万トン(同94%)と、輸入量の48%を占めた。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成29年7月)

区分	平成27年		平成28年		平成29年7月		平成29年1~7月	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同期比	数量
生鮮野菜	826,845	93	862,416	104	60,188	85	553,264	112
加工野菜	1,752,337	98	1,768,892	101	168,253	108	1,107,701	109
野菜合計	2,579,182	97	2,631,308	102	228,441	101	1,660,964	110
うち中国産野菜合計	1,355,491	96	1,365,785	101	110,387	94	819,552	112
中国産シェア	53		52		48		49	

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成29年7月)

区分	平成27年		平成28年		平成29年7月		平成29年1~7月	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同期比	数量
生鮮野菜	22,992	240	31,867	139	1,002	108	6,089	31
加工野菜	9,510	121	11,101	117	1,010	111	5,716	101
野菜合計	32,502	186	42,968	132	2,012	109	11,806	47

主な生鮮野菜の輸入先(平成29年7月)

輸入合計	前年比	1位		2位		3位		
		国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	24,032	75	中国	20,690	豪州	1,956	ニュージーランド	1,385
にんじん	6,783	88	中国	6,569	ニュージーランド	149	豪州	57
ばれいしょ	5,660	126	米国	5,644	中国	16		
ねぎ	4,554	89	中国	4,554				
ジャンボピーマン	4,352	105	韓国	3,959	オランダ	381	カナダ	12
ごぼう	3,777	81	中国	3,766	台湾	11		
にんにく	1,866	92	中国	1,746	スペイン	108	米国	11

同(平成28年7月)

輸入合計	前年比	1位		2位		3位		
		国名	数量	国名	数量	国名	数量	
たまねぎ	32,104		中国	26,248	ニュージーランド	3,662	豪州	1,048
にんじん及びかぶ	7,736		中国	7,494	ニュージーランド	162	豪州	75
ばれいしょ	4,502		米国	4,498	中国	4		
ねぎ	5,091		中国	5,091				
ジャンボピーマン	4,140		韓国	3,689	オランダ	451		
ごぼう	4,672		中国	4,601	台湾	71		
にんにく	2,030		中国	1,954	スペイン	60	米国	13

資料:農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料:財務省「貿易統計」)
 ※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。
 ※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。

主な生鮮野菜の輸出先(平成29年7月)

輸出合計	前年比	1位		2位		3位		
		国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	375	74	台湾	196	米国	161	シンガポール	17
キャベツ等	330	250	台湾	263	香港	49	シンガポール	15
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	66	65	台湾	33	香港	19	タイ	9

同(平成28年7月)

輸出合計	前年比	1位		2位		3位		
		国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	510		台湾	275	米国	181	シンガポール	51
キャベツ等	132		台湾	65	香港	36	シンガポール	21
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	102		台湾	58	タイ	17	インドネシア	11

同(平成27年7月)

輸出合計	前年比	1位		2位		3位		
		国名	数量	国名	数量	国名	数量	
ながいも	482		台湾	317	米国	110	シンガポール	52
キャベツ等	59		香港	42	シンガポール	12		
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	106		台湾	57	香港	26	タイ	16

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。